

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に初めて漂着したニッパヤシの果実

Fruit of *Nipa fruticans* Wurmb washed ashore at Kita-hama beach of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University, Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan as the first record in this area

久保田 信 (Shin Kubota) (和歌山県)

(京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)

和歌山県白浜町に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所周辺の番所崎の磯浜海岸とそこに隣接する通称“北浜・南浜”の砂浜には、これまでアダン *Pandanus formosana* Hemsley, イルカンダ *Macuna macrocarpa* Wall., オオバヒルギ *Rhizophora mucronata* Lam., ココヤシ *Cocos nucifera* L., ゴバンノアシ *Barringtonia asiatica* (L.) Kurz, サガリバナ *Barringtonia racemosa* (L.) Spreng., テリハボク *Calophyllum inophyllum* L., ニリスホウガンヒルギ *Xylocarpus mokuccensis* (Lam.) Roem., ホウガンヒルギ *Xylocarpus granatum* Koenig, ミフクラギ *Cerbera lactaria* Ham., モダマ *Entada phaseoloides* (L.) Merr., モモタマナ *Terminalia catappa* L., ワニグチ *Mucuna gigantea* (Willd.) DC. 等の様々な熱帯系植物の散布体が漂着している (榎山・久保田 2003, 榎山ほか 2005; 久保田 2003, 2006a, b, 2011; 久保田ほか 1999, 2004a, b, 2008, 2015; 中西ほか 2006)。今回, 2015 年に当該区域に初めてニッパヤシ *Nipa fruticans* Wurmb の果実が漂着したので報告する。

ニッパヤシ *Nipa fruticans* Wurmb の果実 1 個が 2015 年 10 月 14 日に京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に漂着した (図 1)。本地区からは初記録で, 長さ約 11 cm, 幅 9 cm で, 黒色であった。ヤシ科 1 属 1 種の本種は, 北半球では東南アジア・インドのマングローブ湿地から我が国の西表島の河口まで台湾を除き生育し, 果実は本州太平洋岸では鹿児島県から千葉県まで, 本州日本海側では福岡県から新潟県まで漂着している (中西 2008)。本果実の日本本土への漂着記録は, 1969 年からの 40 年間で 394 個とココヤシに次いで多いが, 1979 年頃まで多かったのが, 最近は少なくなっている (中西・石井 2010)。紀伊半島付近では, 徳島県沿岸 (池淵・茨木 2005) や渥美半島 (はやし 2013) での漂着記録がある。

なお, ニッパヤシの果実が漂着した日には, 同時にモモタマナ果実が 2 個見られた。その後もモモタマナは毎日のように 1-3 個の果実が漂着し, 10 月 21 日までに合計 11 個が 1 週間で漂着した。この期間中, 多数の軽石の漂着も見られた。

謝辞

原稿を読んでもくださりコメントを頂いた中西弘樹先生に深謝致します。

引用文献

- 池淵正明・茨木 靖. 2005. 徳島県の漂着種子と果実 2. 漂着物学会会報, (12): 6.
はやししげお. 2013. 2012 渥美半島漂着ブレイク・その傾向と対策. 漂着物学会会報, (46): 4-6.

榎山嘉郎・久保田 信. 2003. 変わった型のココヤシの和歌山県白浜町番所崎への漂着記録. 漂着物学会誌, 1: 29-30.

榎山嘉郎・久保田信. 2006. 細長型ココヤシの和歌山県白浜町への漂着追加記録. 漂着物学会会報, (16): 7.

榎山嘉郎・久保田 信・戸部 博・中西弘樹. 2005. 和歌山県白浜町番所崎, 特に“北浜”に漂着した球形のココヤシおよび最大と最小のココヤシ果実の記録. 漂着物学会会報, (12): 8.

久保田 信. 2003. 南方系植物果実複数種の和歌山県白浜町番所崎への稀な漂着記録. 漂着物学会誌, 1: 31-32.

久保田 信. 2006a. ゴバンノアシの漂着. 宝の海から 白浜で出会った生き物たち. pp.102-103, 図版 30. 紀伊民報, 田辺市.

久保田 信. 2006b. 和歌山県田辺湾に最近漂着した 2 個目のモダマ (マメ科) の種子. 南紀生物, 48(2): 168.

久保田 信. 2011. 和歌山県沿岸に漂着したサガリバナ *Barringtonia racemosa* (サガリバナ科) の果実. 南紀生物, 53(1):78.

久保田 信・榎山嘉郎・中西弘樹. 2008. 和歌山県白浜町番所崎およびその近隣海岸へ夏季の短期間に集中漂着した熱帯起源の植物散布体. 漂着物学会誌, 6: 25-26.

久保田 信・永益英敏・中西弘樹. 2004b. イルカンダ (マメ科) 種子の本州への漂着初記録. 南紀生物, 46(1): 37-38.

久保田信・岡村親一郎・湊宏・中西弘樹. 2004a. 和歌山県田辺湾周辺海域に最近漂着したモダマ (マメ科) の種子. 漂着物学会会報, (9): 2.

久保田 信・田名瀬英朋・榎山嘉郎. 1999. 和歌山県田辺湾

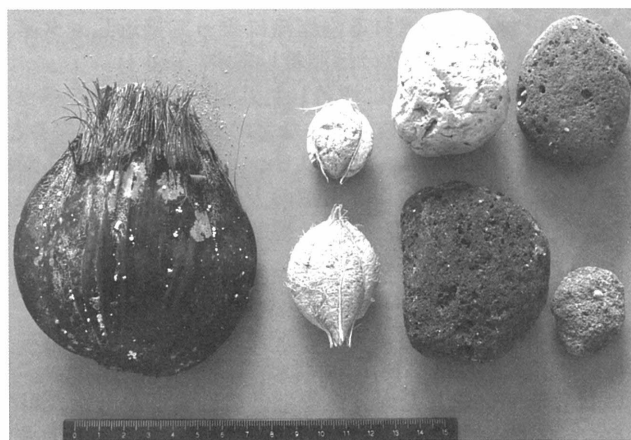


図 1 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所北浜に 2015 年 10 月中旬に漂着したニッパヤシ果実 (左の 1 個) とモモタマナ果実 (中央の 2 個) および軽石 (右の 4 個)

- に漂着したゴバンノアシ (サガリバナ目, サガリバナ科) の果実. 南紀生物, 41(2): 129-130.
- 中西弘樹 2008. 海から来た植物. 319 pp. 八坂書房, 東京.
- 中西弘樹・石井 忠 2010. 日本本土における熱帯起源の漂着果実と種子の 40 年間の変化. 漂着物学会誌, 8: 7-11.
- 中西弘樹・久保田 信・松本敏郎・伊藤正一. 2006. ワニグチモダマ *Mucuna gigantea* (Willd.) DC. (マメ科) の種子の日本本土への漂着. 漂着物学会誌, 4: 41-42.
- 久保田信. 2015. テリハボク果実の和歌山県下で 3 例目の漂着記録. 漂着物学会誌, in press.
-